第二四〇回ペン川柳会

令和六年五月二十七日

お題「湯」

■浜田（我々好）ウィスキー

妻の出た湯舟の足し湯また増えた

美人の湯浸かった妻に変化なし

■稲宮（井波）いなみ

ぬるま湯で三十年間あっと過ぎ

混浴と期待過ぎだよ酸ヶ湯にて

■三春（火酒）ウォッカ

喜寿米寿ぬる湯ぬる燗ぬる介護

富士を背に呻く銭湯四十五度

■八木（明迷）めいめい

爺の風呂産湯のように入れられて

湯神楽の巫女に手を出し大やけど

■塚田（拿々）だだ

般若湯理屈を重ね今日も飲む

混浴で湯気の彼方に浮かぶ影

■安藤（晃二）てるつぐ

山河あり子供ら鼓舞す湯川さん

混浴の定山渓や湯気の濃し

■山縣（安兵衛）やすべえ

ガリベンの学者ニヤケる女の湯

番台や見える湯の園あなおもろ

■ だし（だし）

野守だけ美人が気遣う別府の湯

懐かしい調べにつられ湯が地震

世話人　塚田　實（だだ）（拿々）